

編集後記

＜武内 俊彦＞

本号は年1回ないし2回企画されている「症例・研究特集」であるが、今回も食道2編、胃6編、腸4編と貴重な症例が広く掲載されている。このうち4編は昨年秋、岐阜市で開催された第21回「胃と腸」購読の諸先生全国大会で発表され、熱心な討議と適切なコメントが加えられた興味ある症例である。実に本号12編中8編はすべてその地方の第一線病院で診断、治療されたもので、多忙な地域医療の中で消化器病の診療に日夜専心しておられる諸先生方に心から敬意を表したい。臨床上、おそらく一生の間に経験することがないかもしれない症例からは、今後の診療に役立つ知識が得られるし、今まで遭遇したことのある類似症例からは、検査あるいは病理所見の相違に教えられ、反省させられるところが少なくない。こうした症例の積み重ねが消化器疾患の診断の進歩、病態の解明につながって行くに違いない。

1例、1例の綿密な分析と集積を怠ってならないのはもちろんであるが、診断面における絶えまない研鑽もまた望まれるところである。本邦における診断レベルは自負するに足る高さにあるとはいえ、現状に満足することの戒めを覚える昨今である。

＜編集＞ 早期胃癌研究会